



下商物語
 (その二) 卒業生のはなし ①
 教諭 林 俊行

本校の卒業生は、今回の卒業式で累計「二万八千名」を超えます。ちなみに本校初の卒業式は、明治二十年十月でわずか五名(第一期の入学生は三十六名、当時は半年毎のかなり厳しい進級制度で落第が多かった)からのスタートでした。この累計数はなんと単純に言えば現在の下関市民の方で十名に一人は本校の卒業生になる人数となります。

今回は、数多い卒業生の中で各界で活躍された主な方々を何回かに分けて紹介してみたいと思います。卒業生が社会に出て活躍する際に何かに役立つことがあるかも知れませんので、参考にしてください。

まずは、地元経済界では現在の山口銀行の土台を築かれた初代頭取の「布浦真作氏(大正二年卒)」。身上とする堅実主義に基づき「健全なる積極進取」の経営方針のもと全国の地方銀行のトップを切っ掛け総合オンライン制を導入されました。現在の下関駅近くに

ガス元社長「岩田整氏(昭和八年卒)」も地元エネルギー産業界をリードされ、本校の野球部後援会長も担当され野球部の発展にも貢献されました。

わが国の経済界では、「大和に債券の菊一あり」といわれた元大和証券社長の「菊一岩夫氏(昭和八年卒)」、現在の富士通の元社長・会長を永年勤められた和田恒輔氏(明治二十八年卒)や、現在のTOTOの前身であった東洋陶器会長「黒河準人氏(昭和二年卒)」、一代でエネルギー業界大手の橋本産業を築かれた「橋本匠氏(昭和二年卒)」は、モットーの「勸業(人より業績をあげるためには人の何倍も働く、趣味は働くこと)」で業界トップを極められた。同氏は亡くなる前に母校の後輩のために純銀製の盾を寄贈(平成十一年度から優秀な卒業生に毎年十名を二十五年間に亘って授与)され、同氏の意を汲んで卒業式の前日の同窓会入会式で該当事に授与しています。また、元石川島播磨重工業副社長で相談役も務めた「大久保潔氏(大正十四年卒)」や、渡洋底引き漁業の日東漁業社長「柏木新市氏(大正十五年卒)」など数えきれないほどの先輩方が活躍されておられます。

今回は、金融界を中心に紹介しましたが、まだまだ多方面に活躍

されておられる卒業生の方々の紹介は次号でと思いますが、本校の校舎などが他校と違って恵まれている環境にあるのは、下関市当局とこのような先輩方の熱い思いによるものでもあり、後輩に次代を託する思いを忘れてはならないと思います。いかがですか在校生のみなさん。校舎内外で先輩の「頑張れ下商」といった熱いエールが聞こえてきませんか。

※参考文献 下商百年史、下商百二十年記念誌、いま同窓生は「朝日新聞下関支局編集」、山口県同窓人国記「交流活活計画ユニゾン編集」など